

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	株式会社クラウン電装本社 新築工事	
建設地	新潟県新潟市江南区西野字下田1450-15	
用途地域	準工業地域、法第22条区域	
建物用途	事務所、工場	
竣工年	2023年3月 竣工	
敷地面積	8,107.56 m ²	
建築面積	2,272.60 m ²	
延床面積	4,254.23 m ²	
階数	地上4F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2022年7月11日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{49.2}{28.6} = 1.7$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	2.8		バリアフリー計画	1.0
			維持管理	4.0
			設備の更新性	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.8		耐震・免震・制震・制振	3.0
			信頼性	2.6
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	1.5		生物環境の保全と創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

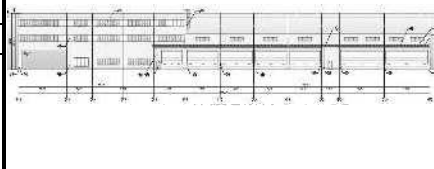
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社クラウン電装本社 新築工事	階数	地上4F
建設地	新潟県新潟市江南区西野字下田1450-15	構造	S造
用途地域	準工業地域、法第22条区域	平均居住人員	65人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,960時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 竣工	評価の実施日	2022年7月11日
敷地面積	8,108 m ²	作成者	大和ハウス工業(株)信越建築一級建築士事務所
建築面積	2,273 m ²	確認日	2022年7月11日
延床面積	4,254 m ²	確認者	大和ハウス工業(株)信越建築一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合 緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。		その他
Q1 室内環境 F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。	Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) 夜間照明の設置など防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー LED照明採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。	LR3 敷地外環境 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される